

赤かび病防除(2回)の徹底で、赤かび粒混入率0.0%

高品質麦の安定生産・ちくしW2号タンパク質12%以上目標

重点ポイント	対 策	効 果
土 づ く り	・ 土壌改良資材の施用(適正pH6.0~6.5)・作土深の確保(15cm以上)・堆肥の施用(10a当たり2t)	・ 高品質で安定した生産
排 水 対 策	・ 弾丸暗渠(地下排水対策)・明渠、額縁排水(表面排水対策)	・ 生育不良防止・枯れ熟れ防止
適 期 播 種	・ ちくしW2号11月10日~25日、チクゴイズミ11月20日~12月10日、はるか二条11月15日~30日	・ 適正な初期生育の確保
管 理 作 業	・ 除草剤の適正な使用・土入れ、麦踏み(土壌の乾いているとき)・溝さらえ(排水口に繋ぐ)	・ 雑草害の防止・倒伏防止と過繁茂抑制
適 期 防 除	・ 大粒大麦(穂揃い期の10日後とその7~10日後の2回)・小麦(開花期とその7~10日後の2回)	・ 被害粒の混入防止・高品質麦の生産
適 期 収 穫	・ 大粒大麦(穀粒水分25%以下、穂首が8割以上曲がる頃)・小麦(穂首が黄化し、粒の背側が褐色となり完全粒の割合が80%以上)	・ 粒の損傷防止

月 旬	11			12			1			2			3			4			5			6		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上		
小 麦	耕起(深耕)・整地・額縁排水 種子消毒 播種・基肥作溝 除草剤散布(播種直後) (播種適期)			麦踏み			追土入れ(本葉3~4葉頃) 麦踏み 除草剤散布(生育中期)			麦踏み			追土入れ 麦踏み			溝さらえ 出穂期			赤かび病防除(1)(2) 赤かび病防除(1)(2) 穂揃い期追肥(3) (開花期とその7~10日後の2回)			収穫 成熟期 出穂期から約50日後頃 粒の背側が褐色となり 穀粒水分が30%以下 成熟期2~3日後		
	品質目標 ちくしW2号 チクゴイズミ			1. タンパク質含有率 12.0%以上 1. タンパク質含有率 9.7%以上			2. フォーリングナンバー 300以上 2. フォーリングナンバー 300以上			3. 灰分 1.75%以下 3. 灰分 1.60%以下			4. 容積量 833g/l以上 4. 容積量 840g/l以上											
大 麦	pH6.5~6.5事前に土壌分析を行う事 耕起(深耕)・整地・額縁排水 種子消毒 播種・基肥作溝 除草剤散布(播種直後) (播種適期)			麦踏み			追土入れ(本葉3~4葉頃) 麦踏み 除草剤散布(生育中期)			麦踏み			追土入れ 麦踏み 網斑病防除			溝さらえ 出穂期			赤かび病防除(1)(2) 赤かび病防除(1)(2) (穂揃い期の10日後とその7~10日後の2回)			収穫 成熟期 出穂期から約45日後頃 穀粒が黄白色になった頃 穂首が8割以上曲がり 穀粒水分が25%以下 成熟期3~4日後		
	大粒大麦の条件			はるか二条			1. 容積量 709g/l以上			2. 細麦率 2.5mm(篩)下に3.0%以下			3. 白度 40以上			4. 正常粒率 80%以上								

《品種特性》

品 種 名	出穂期 月 日	成熟期 月 日	稈 長 cm	穂 長 cm	m ² 当り 穂数本	10a当り 収量 kg	倒伏 耐性	穂発 芽性	耐病性 赤かび うどんこ		
小麦	ちくしW2号	4.11	6.1	84	9.2	482	497	強	難	やや弱	やや強
小麦	チクゴイズミ	4.12	6.1	88	8.5	537	562	やや強	中	やや強	やや弱
大麦	はるか二条	4.7	5.22	79	6.5	654	572	強	やや難	中	極強

※播種期は、小麦：11月20日~25日前後、大麦：11月18日~12月3日前後。

1. 土壌改良資材 (10a当たり)

品 名	使用量
炭酸苦土石灰精粒	100kg
ケイカル	160kg
セルカオイスターミネラル	100~140kg

(参考) 土壌pHと麦の収量指数 (%)

種 類	pH			
	4.5	5.0	5.7	6.8
小麦	68	76	89	100
大麦	0	23	80	95

※麦類(特に大麦)は酸性障害に弱いので、石灰資材による酸度矯正を行いましう(酸度矯正の目安はpH6.0~6.5)。

2. 播種時期と播種量 (ドリル播) (10a当たり)

品 種 名	11月10日~25日		11月20日~30日		12月1日~10日	
	播種期	播種量	播種期	播種量	播種期	播種量
小麦	ちくしW2号	6~7kg	チクゴイズミ	7~8kg	チクゴイズミ	9~10kg
大麦	はるか二条	11月15日~30日 7~8kg				

※上記の品種別播種時期は、共乾施設の荷受が競合するため必ず厳守してください。

3. 種子消毒

薬剤名	事項	処理方法	濃 度	作 業 方 法
トリフミン水和剤 (班葉病、網斑病、 なまぐさ黒穂病、裸黒穂病)	種子粉衣	種子重量の0.5%	種子10kgに薬剤50gを袋等に入れて、まんべんなく粉衣する。	
キヒゲンR-2フロアブル (班葉病、網斑病(大麦) なまぐさ黒穂病、ヤギシロトビムシ(小麦))	種子塗沫	-	種子10kgに薬剤200mlを袋等に入れて、まんべんなく塗沫する。	

※ヤギシロトビムシ対策(小麦):上記種子消毒に加えてアドマイヤー水和剤を種子10kgに薬剤15gを粉衣する。

4. 施肥基準 (10a当たり)

品 種 名	基 肥	追肥①	追肥②	穂揃い期追肥③
		1月中下旬	3月上旬	4月中旬
小麦	ベスト4・4・4 40kg 又は チクゴイズミ 又は 万能肥料	ベスト4・4・4 30kg 又は 硫酸 20kg	硫酸 10kg	硫酸 25kg 又は 尿素 10kg
		たんば君 35~40kg		硫酸 15kg
大麦	はるか二条 35kg	ベスト4・4・4 30kg 又は 硫酸 20kg	硫酸 10kg	硫酸 10kg
		たんば君 35~40kg		
		ベスト4・4・4 30kg 又は 硫酸 20kg	硫酸 10kg	
		麦追肥名人 30kg		

※大豆後作の場合、基肥の量を20kgとし、追肥は生育状況に応じて施用する。
 ※小麦については、タンパク質含有率向上のため、必ず穂揃い期追肥③を施用する。
 ※穂揃い期追肥③については、以下の尿素葉面散布という方法もあります。
 ・動力噴霧機やブームスプレーヤにより、液剤で赤かび病防除を行う際に、防除薬液に尿素を溶かして散布する方法です。尿素については、10a当たり4.3kg(窒素成分で約2kg)の換算で防除薬液(100~150l/10a)に溶かして散布します。散布後、小麦の穂先の芒や葉先がやけて枯れますが、生育に問題はありませぬ。

5. 雑草防除基準 ヤエムグラ・カラスノエンドウ等の異物(雑草の実)混入防止を徹底 (10a当たり)

事項区分	薬 剤 名	処理時期	使用量	希釈水量	備 考
播種前時	ラウンドアップマックスロード	播種前~ 播種後出芽前まで	200~500ml	100l	播種前に雑草が多発している場合は散布する。
播種後	リベレーターフロアブル	播種後~ 麦3葉期まで (イネ科雑草1葉期まで)	60~80ml (大麦は70ml)	100l	抵抗性スズメノテッポウ・広葉雑草に効果が高い。葉害軽減のため、大麦、砂壌土等では散布量に注意する。
	キックボクサー細粒剤F	播種後~ 出芽前まで	3~4kg	-	効果安定のために土壌が適度に水分を含んでいる時に散布する。
生育中期	ハーモニー75DF水和剤 (イネ科、広葉)	麦1葉期~ 節間伸長前まで	5~10g (雑草多10g)	100l	スズメノテッポウ5葉期まで。スズメノカタビラには効かない。周辺作物へのドリフトに十分注意する。
	アクチノール乳剤 (広葉)	麦の生育中期 (穂ばらみ期まで)	100~200ml	70~100l	イネ科には効かない。周辺作物へのドリフトに十分注意する。
	バサグラン液剤(Na塩) (広葉)	生育期(雑草の3~6葉期) (小麦は収穫45日前まで、 大麦は収穫90日前まで)	100~200ml	70~100l	イネ科には効かない。トゲミノキツネノボタンに効果が高い。

※リベレーターフロアブルは、イネ科雑草が多いところに効果が高い。

※ハーモニー75DF水和剤散布後の注意

散布に用いた動噴、ホース等は、消石灰500倍液を10分間循環させ、20分間放置し排水後、清水で洗浄する。

6. 赤かび病防除 (10a当たり)

事項区分	薬 剤 名	対象病害	散布量(希釈水量)	備 考	使用時期
小麦	ワークアップフロアブル	赤かび病	2,000~3,000倍 (100~150l)	ワークアップフロアブルは、小麦では3回まで使用できます。	収穫7日前まで
	トップジンM水和剤	赤かび病 うどんこ病	1,000倍 (100~150l)	トップジンM水和剤は、小麦では出穂期以降2回まで使用できます。	収穫14日前まで
大麦	ワークアップフロアブル	赤かび病	2,000~3,000倍 (100~150l)	ワークアップフロアブルは、大麦では3回まで使用できます。	収穫7日前まで
	トップジンM水和剤	赤かび病 うどんこ病	1,000倍 (100~150l)	トップジンM水和剤は、大麦では出穂期以降1回しか使用できません。	収穫30日前まで
2回目	ワークアップフロアブル	赤かび病	2,000~3,000倍 (100~150l)	ワークアップフロアブルは、大麦では3回まで使用できます。	収穫7日前まで

※散布時期は

大粒大麦……穂揃い期の10日後とその7~10日後の2回 小麦……開花期とその7~10日後の2回

※散布時期により使用できる薬剤が違いますので、注意してください。

※網斑病が発生した場合は、ワークアップフロアブル 2,000倍で防除してください。